

平成 30 年度 粟生幼稚園 関係者評価

総 評

- ・全体として妥当な保育及び運営がなされていると認められる。
また、自己点検・自己評価と研修を行うことで、各々の課題を明確化し、ねらいを持って保育に取り組む様子がよくわかる。
- ・園での出来事を話したり、新しい友達が出来たり、喜んで登園している。
家庭への連絡を丁寧に行おうとしており、施設面においても計画的に改修工事を行って、より良い環境を作ろうとしている。
又、年間行事も充実しており、これまでに進めてきた施策に加え、前向きな学校運営を行っている。

教育目標

自然農園・体操・音楽の三本柱を中心に保育計画を立て、子ども達が無理なく達成できる様な指導を行う。

- ・大きな声であいさつができる。
- ・友達と仲良く遊べる。
- ・人の話をしっかりと聞くことができる。
- ・戸外で元気に遊ぶことができる。
- ・素直に“ありがとう”と言える。
- ・伸び伸びと自己表現ができる。
- ・自然に親しみ動植物をいたわることができる。

重点目標

設定した評価項目に沿って、自己評価をすることにより、教職員自らが客観的に自園を再確認し、保育内容等の改善を主体的に取り組んでいく。

評価項目について（子どもの自立に必要な力の育成）

「ええとこのぼそ・たすけあおう・わかりあおう」を見据えて

◆ 学力の向上

一人ひとりの子どもにとって将来の自立に必要な力を育てる為、学びの芽生えを培う遊びを積極的に取り組んでいる。

園からの手紙や懇談会を通して保護者に伝えている。

◆ 道徳心・社会性の育成

「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」領域のねらいが達成されるように総合的な指導となる事で「友達と仲良く遊べる」「素直にありがとうと言える」等の教育目標が達成出来ている。

◆ 健康・体力の保持増進

年間を通しての、素足保育・専門的な講師を招いての運動遊び・和太鼓・マーチングを行う事で、良い生活リズムや生活習慣が身につけてきている。

◆ 幼児教育の充実

今年度も野菜や果物（苺・大根・トマト etc.）を栽培し、大切に育てる気持ちを育て、収穫の喜びを味わうと共に、皆で食べることで食に対する興味や関心を持たせる事が出来ている。家庭での食生活の乱れや保護者への啓発も含め、「食育」の大切さへと発展している。又、年々増えている食物アレルギーに対して、個々の家庭と連絡を取り合いながら細かく対応し、健全な食生活の確立に向けて「食育」を進めている。

◆ 特別支援教育の充実

児童虐待の早期発見に関係機関と連携しており、通報のあったケースに対しては園での子どもの様子に十分気を付けている。

又、関係機関との情報は全職員が共有し、過去のケースもふまえて継続的に観察していく。

来年度に向けて

今年度は全保育室・便所・廊下が改修され、子どもを取りまく環境が変化しています。新しい活動内容を工夫しながら本園の教育内容を大切に40年の歴史をさらに充実させていきます。

又、目標設定・取り組み・達成状況の評価・改善のサイクルを常に念頭におきながら園長・主任がリーダーシップを発揮し、教職員が切磋琢磨することにより、優れた教育実践を創造するための仕組みづくりを進めていきます。

平成31年度より「幼稚園型認定こども園」に移行するにあたりさらに充実した教育になる様に、全職員が努めたいと思います。